

軽度認知症(MCI)診断士
養成講座 in 松山
盛会御礼新聞
 平成27年3月7日
TOSS愛媛

一四名の軽度認知症 (MCI) 診断士 誕生！

軽度認知症 (MCI) 診断士の資格認定講座が、松山で開催されました。これまで、東京で二回開催されただけで、地方では初の開催です。

小貴栄一先生、師尾喜代子先生、館野健三先生を講師としてお招きしました。この日、一四名のMCI診断士が松山の地で誕生しました。

MCIとは

MCI (Mild Cognitive Impairment) マイルド認知機能障害パラメントとは、軽度認知機能障害のことです。六五歳以上のMCIは、約四〇〇万人です。(認知症の方が約四六二万人、健康な方が約二二七万人) MCIは、①物忘れの



自覚がある、②記憶力の低下・再生力の低下、③記憶以外の認知昨日は保持、④日常生活の基本はできるなどの特徴があります。

また、MCIの状態としては、①物忘れをすることが多くなった、②新しいことが覚えられなくなった、③約束など、ついすっかり忘れることがある、④新しい商品などの取り扱い説明を読むのが面倒になった、⑤理解や洞察力は全く落ちていない、⑥仕事や日常はしっかりとできてゐる、という事です。

MCI診断テスト KOM

MCIの世界基準のテストは、MOC Aと呼ばれるものです。しかし、それは診断がなされるだけです。MCIの方が本当に知りたいのは、診断を受けたあと、どのようなことに気をつけて生活していけばよいかです。その後



の指導がセツトになっていくのがKOMです。これは、精神科医の吉川氏、脳科学編集者の小貴氏、そしてT OSS代表の向山氏のイニシャルをとって名づけられました。今後、KOM式の診断テストが世界基準となっていくでしょう。

当日は、二人組をつくり互いに診断を申し合いました。講師の先生方から、その都度ご指導をいただくので、診断士の言葉のかけ方やテストをする際に気をつけることなど、体験的に理解することができました。

感想

■実際に診断するときのポイントが分かった。そして、アドバイスがきちんとできることが重要だということがよく分かった。診断だけで終わってはいけないのだ。脳トシと組み合わせるアフターケアをしていき予防していく。実際に機能させていくことが必

要なのだ。■この問題は、どんな意図があって作られているのか、どういう言葉を使うのがいいのか(主意説明や激励の法則など)とてもよく分かった。■二人一組になって、診断士になったり被験者になったり。この演習がよかった。やってみなければ分からないことがたくさんある。臨床の世界だから、場数が物を言う。場数を踏めば踏むほど、診断も正確になる。診断方法も検証できる。

